

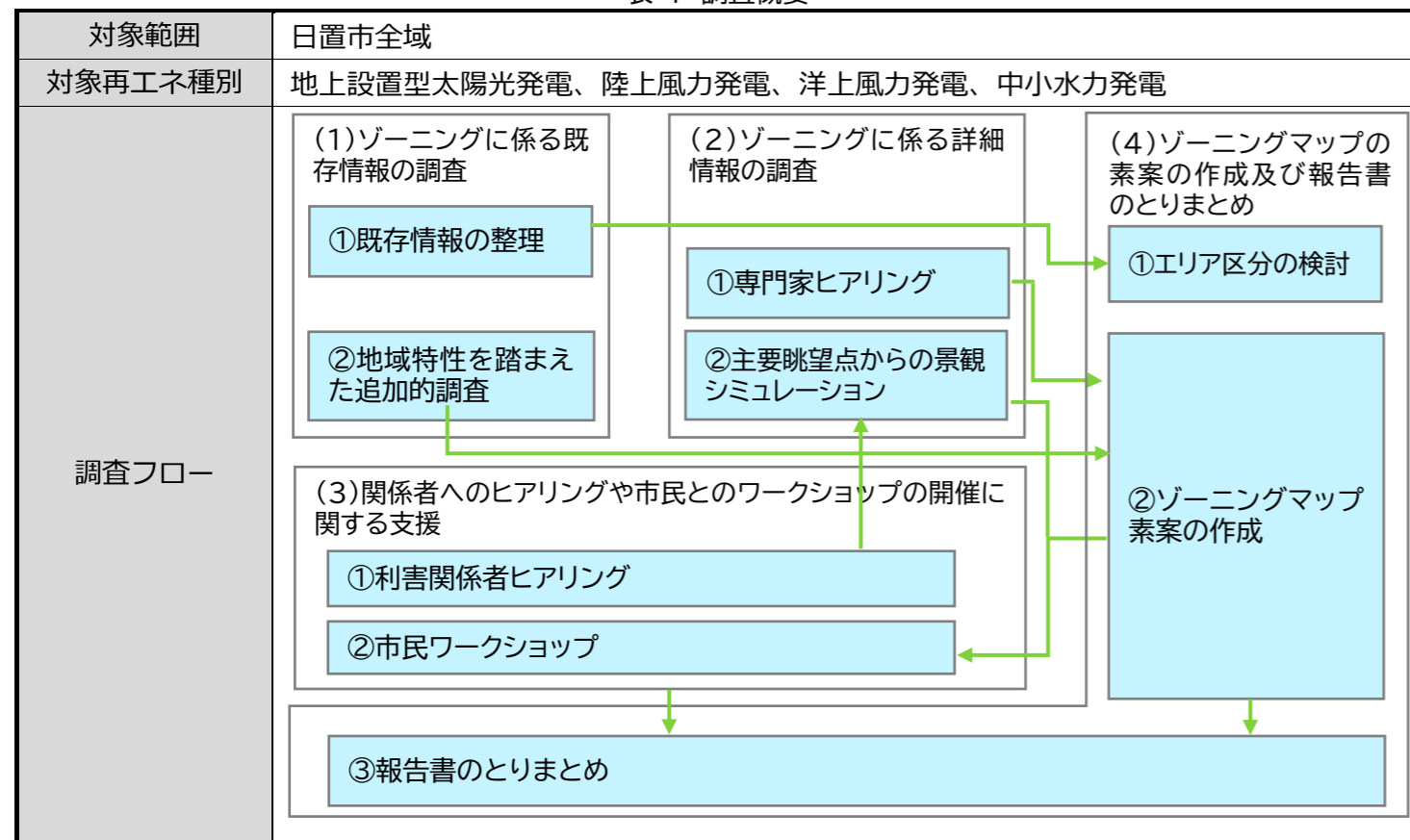
# 令和7年度再生可能エネルギーゾーニング業務 成果報告書【概要版】

本業務は地域と共生した再生可能エネルギー(以下、再エネ)の導入の基盤を整備するため、日置市全域(海域を含む)を対象範囲とし、太陽光、風力、中小水力について、導入ポテンシャルや自然的・社会的条件等の調査を行い、地域の利害関係者等のヒアリング等を通じてゾーニングマップの素案を作成し、公表することを目的として実施した。

## 1. ゾーニングマップ作成の流れ

ゾーニングマップ作成のために、ゾーニングに係る既存情報を整理した上で、専門家ヒアリングや景観シミュレーション等により詳細情報を収集した。また、関係者へのヒアリングや市民とのワークショップの開催に関する支援を行い、収集した知見や市民の意向を反映し、ゾーニングマップ素案を作成した。

表1 調査概要



## 2. ゾーニングに係る既存情報の調査

対象再エネの設置に関する自然・社会条件について、各種文献に基づき調査項目を設定し、体系的に収集・整理した。得られた既存情報はGISに取りまとめ、あわせて荒廃農地の分布など地域特性を踏まえた追加調査を実施した。

## 3. ゾーニングに係る詳細調査の実施

### 3.1 専門家ヒアリング

再エネ種別ごとの特性と地域特性を踏まえたうえで、地元住民の懸念事項になり得る情報かつ既存情報収集では把握できない専門的で秘匿性の高い情報等について、専門家ヒアリングにより把握・整理し、ゾーニングに反映した。

表2 専門家ヒアリング対象

【哺乳類】鹿児島国際大学 船越公威 名誉教授、【陸産貝類・淡水汽水産貝類】鹿児島大学総合教育機構 富山清升 教授、【鳥類】日本野鳥の会かごしま県支部、【植物】鹿児島植物研究会、【爬虫類・両生類】鹿児島大学水産学部 西隆一郎 教授、【汽水・淡水産魚類】鹿児島大学水産学部 久米元准教授、【昆虫類】鹿児島昆虫同好会、【海域地質】鹿児島大学理工学研究科 山本啓司 教授、【陸域地質】鹿児島大学工学部 酒匂一成 教授、【地下水への影響】鹿児島大学理工学研究科 齋田倫範 准教授
--

## 3.2 主要眺望点からの景観シミュレーション

再エネポテンシャルを有する土地への再エネ配置を仮定し、主要な眺望点からの可視領域図およびフォトモンタージュを作成して、自然的景観への影響を分析した。

フォトモンタージュは洋上風力および陸上風力を対象とし、洋上風力については、市を代表する4地点(遠見番山、江口海浜公園、帆の港、入来浜)からの眺望を作成した。



図1 洋上風力発電フォトモンタージュ(遠見番山からの眺望)

## 4. 関係者へのヒアリングや市民とのワークショップ開催に関する支援

### 4.1 利害関係者ヒアリング

再エネ種別ごとの特性を踏まえたうえで、導入を想定した際に影響を与える可能性のある具体的なエリア、操業の実態及び各種再エネへの懸念事項について、利害関係者へのヒアリングにより把握・整理した。

表2 専門家ヒアリング対象 ※ヒアリング見送り

農業	日置市農林水産課	漁業	江口漁業協同組合、吹上町漁業協同組合※
林業	かごしま森林組合ひおき支所	地域住民	公民館(伊集院地区、吉利地区、藤元地区、湯田地区)
観光・景観	日置市観光協会	放送電波	日本放送協会鹿児島放送局
商工業	日置市商工会	送配電	九州電力送配電(株)
農業用水	日吉町土地改良区、吹上町土地改良区		

### 4.2 市民ワークショップ

市民とのワークショップを実施し、再生可能エネルギーやゾーニングについて理解を深めつつ、日置市の守りたい場所や、再エネの設置場所や活用方法に関する意見、アイデアを聴取した。



図2 ワークショップの様子

表3 市民ワークショップ概要

開催日時、会場	2026年2月7日 日吉中央公民館(0)、吹上中央公民館(0)
( )は参加者数	2026年2月8日 東市来中央公民館(0)、日置市中央公民館(4)

## 5. ゾーニングマップ素案の作成及び報告書のとりまとめ

### 5.1 エリア区分の検討

既存・詳細情報の調査、関係者ヒアリングやワークショップの成果を踏まえ、再エネ種ごとにエリア区分を設定した。

表4 エリア区分の概要

エリア	内容	再エネ施設の立地可否
立地困難エリア	事業性等の観点から、再エネ施設の立地には適さないエリア。	立地不可
保全エリア	法令等により立地困難、または重大な環境影響が懸念される等により環境保全を優先し、再エネ施設の立地を原則認めないエリア。	立地不可
調整エリア	一律に除外すべきとまで言えないものの環境保全や防災に支障を及ぼすおそれがないよう調整が必要なエリア。	立地可 (十分な調整が必要)
配慮エリア	保全エリア、調整エリア以外に該当し、再エネ施設を立地する上で、配慮すべき事項が含まれるエリア。(本ゾーニングでは該当なし)	立地可
促進エリア	現状は法令等の制約がなく、環境・社会面から再エネ施設の立地を促進し得るエリア。	立地促進

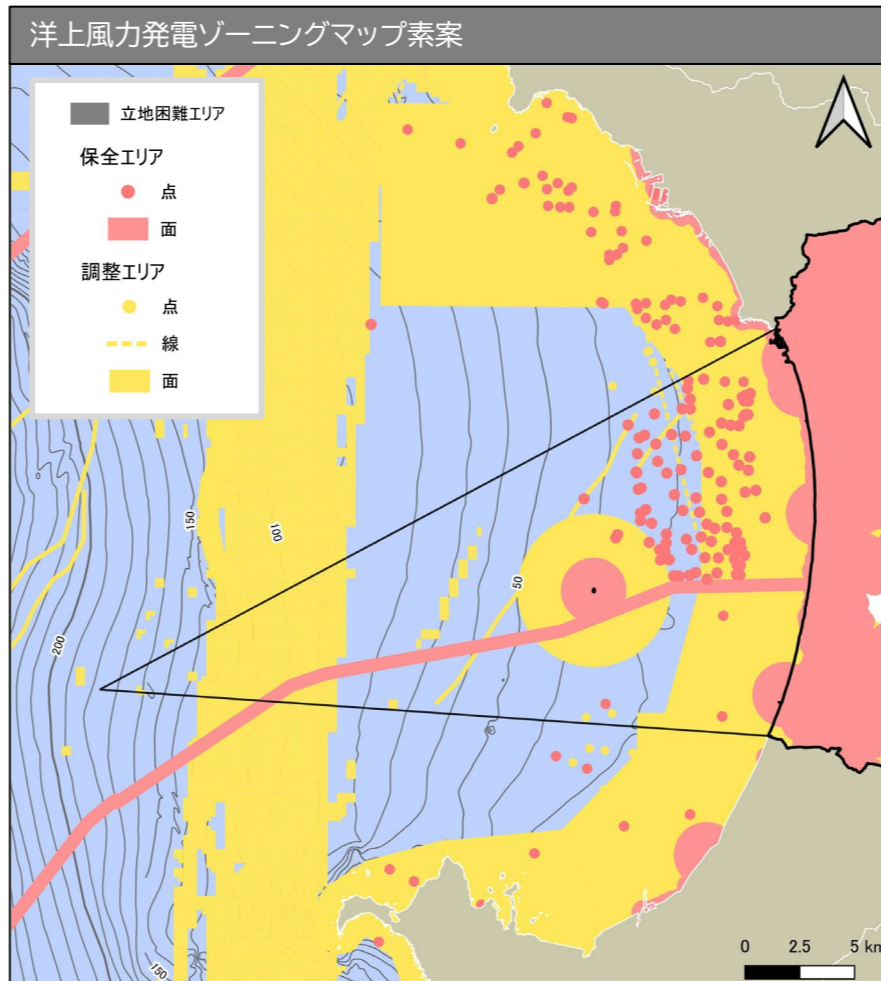
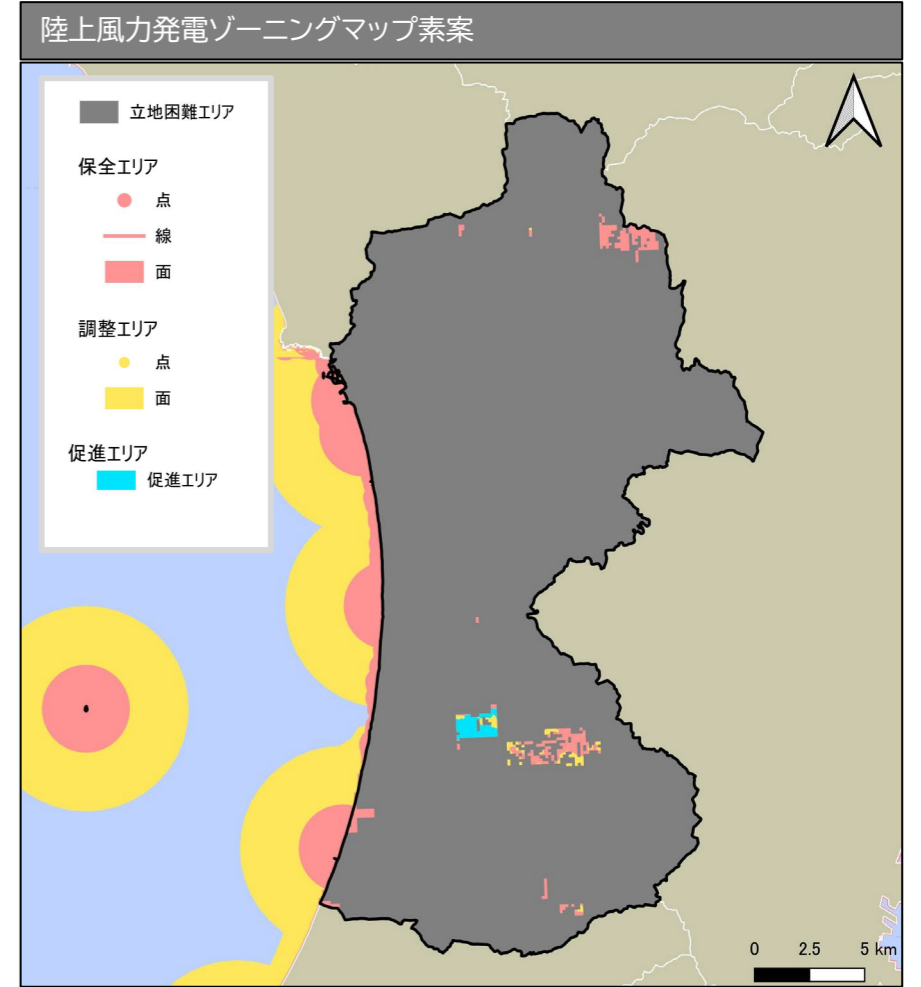
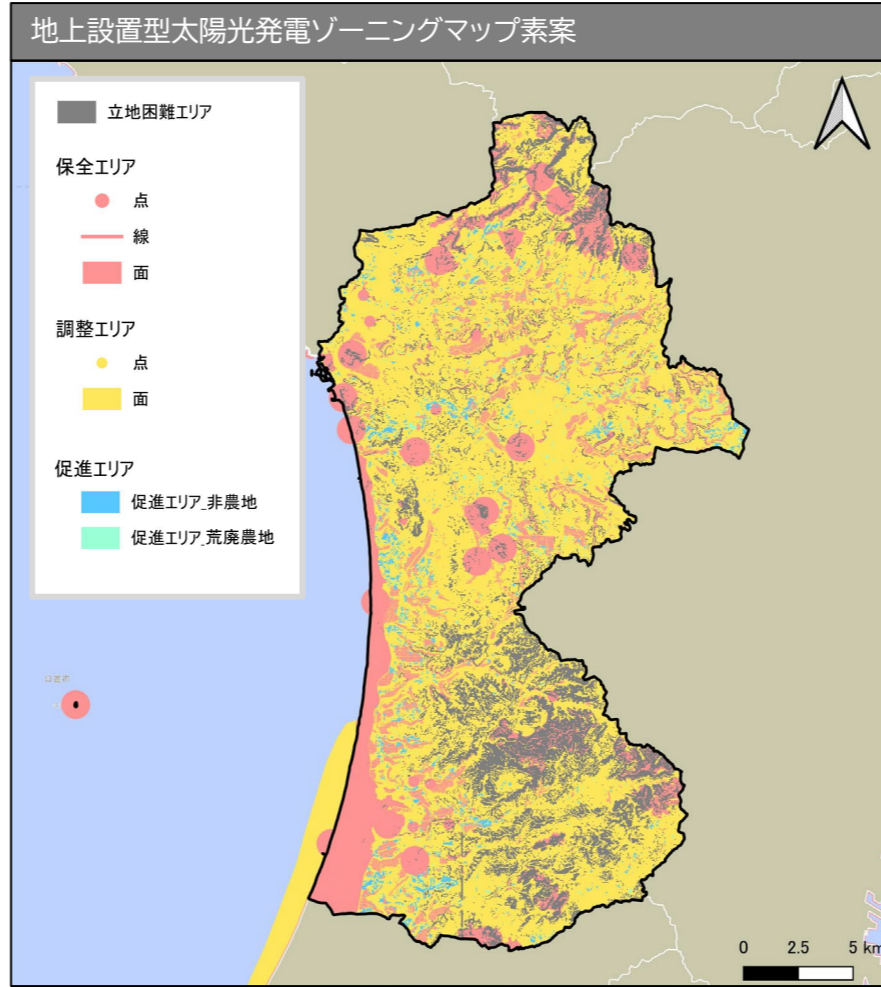
一部を促進エリアに設定

## 5.2 ゾーニングマップ素案の作成

ゾーニングマップ素案を作成し、報告書に取りまとめた。

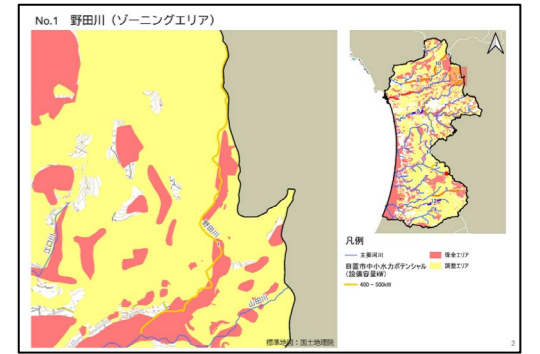
表5 ゾーニングマップレイヤー情報一覧(現時点でデータが整備されているレイヤー情報のみ)

エリア区分	レイヤー情報	再エネ種別			
		太陽光	陸上風力	洋上風力	中小水力
保全エリア	砂防指定地域	○	○		○
	地すべり防止区域	○	○		○
	急傾斜地崩壊危険区域	○	○		○
	土砂災害特別警戒区域	○	○		○
	保安林	○	○		○
	藻場	○	○	○	○
	県立自然公園	○	○		○
	景観資源から500mの範囲	○			
	景観資源から1,500mの範囲		○	○	
	海岸保全区域	○	○		
	一般公共海岸区域	○	○		
	農用地区域内農地(営農型太陽光発電を除く)	○	○		
	重要文化財、国指定史跡、名勝、天然記念物のうち面的に指定されている区域	○	○		○
	県指定有形文化財、県指定有形民俗文化財、県指定史跡名勝天然記念物のうち面的な指定区域	○	○		○
	土地利用区分(田、建物用地、幹線交通用地、その他の用地、河川地及び湖沼、海水域、ゴルフ場)		○		
	都市計画区分(「準工業地域」、「工業地域」、「工業専用地域」を除く市街化区域)		○		
	保全対象施設(学校・病院・福祉施設・住宅地等)半径500m		○	○	
	沈船			○	
海底ケーブル(バッファ300m)			○		
海底障害物			○		
調整エリア	騒音に係る環境基準の類型指定地域	○	○		
	水源地	○			
	日本の典型地形	○	○		
	高速道路、国道	○			
	土砂災害警戒区域	○	○		○
	山地災害危険地区	○	○		○
	宅地造成等工事規制区域	○	○		
	特定盛土等規制区域	○	○		○
	浸水想定区域(洪水等の土地の履歴)	○	○		
	活断層の状況(バッファ100m)			○	
	海底地すべり地形			○	
	地域森林計画対象民有林	○	○		
	県指定鳥獣保護区	○	○		○
	渡りをするタカ類集結地		○		
	ガン類・ハクチョウ類の主要な集結地		○	○	
	主な渡りのルート		○	○	
	風力発電施設における鳥類のセンシティブティマップ(海域版)注意喚起メッシュ			○	
	コウモリ洞、コウモリ分布		○	○	
	ウミガメ産卵地			○	
	重要湿地	○	○		
	植生自然度の高い地域(自然度9、10)	○	○		
	特定植物群落	○	○		
	巨樹・巨大林等の分布状況	○	○		
	30%以上の勾配のある土地	○			
	景観資源から3,500mの範囲		○	○	
	長距離自然歩道	○	○		
	伝搬障害防止区域(中心線から両幅50m)		○		
	共同漁業権区域			○	
船舶通航量			○		



中小水力発電ゾーニングマップ素案

中小水力発電のゾーニングマップは、REPOSでポテンシャルがあると評価された12の河川単位で作成し、保全エリア、調整エリアとの重なりを表示した。



促進エリア(地上設置型太陽光発電、陸上風力発電)

地上設置型太陽光発電と、陸上風力発電において、再エネの積極的な導入が推進し得る「促進エリア」を設定した。地域と共生した再エネ導入の実現を図るため、促進エリアは、自然環境への影響、地域課題との適合性、事業実現性の視点から除外すべきエリアを定め、抽出した。地上設置型太陽光については、非農地と農地に分けて抽出した。

表6 促進エリア面積

地上設置型太陽光		陸上風力発電
非農地	農地	
613ha(2.4%)	126ha(0.5%)	84ha(0.33%)